

## 2018 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 藤岡市立北中学校 ] 担当教諭名 [ 小西 啓吾・後閑 美智子 ] ( 2年1~5組 178名 )

相手国・地域 [ フランス ]

海外学校名 [ La Loge des Bois ] 担当教諭名 [ Thierry Lambert ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	技術	エネルギー変換に関わる技術	6
	技術	情報に関わる技術	8
	美術部	部活動	5

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	融合:一緒にあれば強くなれる
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	<p>地球上にある私たちにとって、必要不可欠な資源やエネルギーには限りがある。現実から目をそむけずに、私たちに何ができるかを一緒に考えていこう。</p> <p><b>フランス側による壁画のテーマの補足説明</b></p> <p>私たちは原子力について、原子の構造や核分裂(ウランやプルトニウム)、核融合(水素から生じた二つの小さな核の集合)などについて勉強をしている。結びつきは、分離より強い。これは、今回の壁画に込められたメッセージになる。「融合:一緒にあれば強くなれる」。融合は、太陽から生み出されるエネルギーである。太陽は植物を育てる。私たちは木を燃やし、古い木々はオイルや石炭に変わる。太陽は海水を気化させる。太陽は風力発電に必要な風も生み出す。ソーラーパネルも。</p> <p>電力源としての核融合を利用するための国際実験用原子炉がある。ITERプロジェクト(熱核融合実験装置)は、現在、マルセイユの隣の南フランスで行われている。もしそれが成功すれば、人類のエネルギー問題は一切なくなる。</p>

日本(右側)は美術部、フランス(左側)は漫画科の生徒が中心となって作成



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの国のエネルギー事情を紹介し合い、比べることで、自分たちの暮らしている国の政策や特色、歴史、国民性などを理解することができた。</li> <li>・フランスのエネルギー事情やそこに暮らす生徒の考えに触れることができた。</li> <li>・テーマ学習を終え「日本とフランスで取り組んでいる地球や未来に対する活動を世界に広めること」、「未来のために節約したり、よりよい生活ができるようにもっと地球に優しい開発をしたりすること」、「廃棄物を減らしたり、資源の再利用を呼びかけたりすること」など、持続可能な未来を創るために「日本とフランスの私たち」ができることを共有することができた。</li> <li>・フォーラムを通して、英語や ICT 機器をコミュニケーションツールとして活用することの必要性を実感することができた。</li> <li>・海外の同世代の子どもたちとテーマ学習や壁画制作などの体験を通して、世界をより身近に感じることができ、興味を広げることができた。</li> <li>・双方向の協働学習において、子どもたちが意見を出し合い、話し合い、まとめ、伝えることを繰り返すことで、コミュニケーション力や協働する力を身に付けることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人が当事者意識をもって、フォーラムで交流できるように、自己紹介や技術科で学習したことの発表をビデオに撮影し、フォーラムにアップした。そのため、エネルギー事情に関する意見を伝え合ったり、質問をし合ったりする時間が少なくなってしまった。</li> <li>・フランスについての調べ学習を行う前に、関係機関や地域の方を講師として招き、相手の国や地域について事前学習ができるとさらに理解が深まる。</li> <li>・フォーラムの活用がうまくいかなかった。教師同士は、お互いの学習内容を把握できるが、子どもたちには実感が伴っていないようであった。子どもたちへの提示の仕方を工夫する必要がある。</li> <li>・前半のテーマ学習は、2年生の技術科の授業の中で進め、学習内容の振り返りや世界に発信したいメッセージを作成した。後半は美術部に依頼して、壁画のデザインとして表現したが、時間もなく、学習内容とのつながりがうまくいかなかった。世界に発信したいメッセージを壁画として表現する段階の指導を工夫する必要があった。</li> </ul>

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めは海外の子どもたちと交流することに対して、実感が伴わない様子であったが、自己紹介をビデオ撮影してフォーラムに掲載すると、子どもたちの意識に変化が見られた。</li> <li>・フォーラムで相手の暮らしている地域について知ることでもっと知りたいという思いが高まり、意欲的に調べ活動を行う様子が見られた。</li> <li>・お互いの国のエネルギー事情について、質疑・応答を繰り返すことで、相違点(フランスは、発電の70パーセント以上を原子力発電が占めていること)や類似点(過去に日本と同様にオイルショックに陥り、自国で電気を賄えるように原子力発電所建設を推し進めてきたこと、東日本大震災の影響により、政策の転換が図られていること、エネルギーの長期的な安定供給と環境問題の克服を両立させる将来のエネルギー源として核融合についての共同研究をしていることなど)について知ることができた。</li> <li>・フランスの同世代の子どもたちは、自分たちと同じように、原子力発電について不安を抱きながら生活していることや、電気の利用について、自分たちができることを同じように考えていることを知ることができ、身近に感じられたようである。</li> <li>・世界がより身近に感じられるようになり、他の地域についても調べてみたいという思いが生まれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランスのエネルギー事情について、子どもたちと学習する中で、理解を深めることができた。</li> <li>・フランスの発電は、約70パーセント以上を原子力発電が占めている。過去に日本と同様にオイルショックに陥り、自国で電気を賄えるようにと原子力発電所建設を推し進めてきた歴史を知ることができた。また、日本の東日本大震災の影響により、政策の転換が図られていることもわかり、日本での出来事が世界に影響していることを身近に感じられた。さらに、核融合は、エネルギーの長期的な安定供給と環境問題の克服を両立させる将来のエネルギー源として期待されて、フランスや日本を含む数か国で共同研究をしていることを知ることができた。</li> <li>・フランスは、遠い国のように思えたが、交流を通して、より身近に感じることができた。</li> <li>・交流を通して知ることのできたフランスについて実際に行って確かめてみたいと感じた。</li> <li>・自分の考えを相手に伝える手段としての英語の重要性を実感した。英語で学習した内容を生かす場があり、インターネットや翻訳機能などを使えば、英語への知識や技能が不足していても、外国人とも交流できることを生徒たちが実感できたことは大きな収穫となった。</li> <li>・相手の学校の様子も分かり、学校生活や授業の内容についてもさらに興味をもつことができた。</li> </ul>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワードで自己紹介カードを作成した。</li> <li>・英語の授業で習ったあいさつや自己紹介の方法を取り入れ、一人一人がビデオ撮影を行った。</li> <li>・エネルギー変換や発電の方法、各国のエネルギー事情について調べ学習を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時差の都合上、フォーラムでの交流となったが、一人一人が相手意識をもって、撮影に臨むことができた。終わったあとに、達成感を感じた様子が見られた。</li> <li>・日本国内だけではなく、各国のエネルギー事情について興味をもち、意欲的に調べ学習を行う様子が見られた。</li> </ul>	技術6
共有 テーマ学習	9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー変換や発電の方法、各国のエネルギー事情について調べたことをパワーポイントでまとめ、フランスの子どもたちに発表した。</li> <li>・発表原稿の作成は、グーグル翻訳を活用した。一人一人の発表をビデオ撮影し、フォーラムでアップした。</li> <li>・フォーラムやフランス側が用意してくれたネット上の掲示板を利用し、質疑・応答を行うことで、お互いの国のエネルギー事情について理解を深めることができた。</li> <li>・日本とフランスのエネルギー事情を比較し、分かったことや気付いたことを共有した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時差の都合上、フォーラムでの交流となったが、一人一人が相手意識をもって、ネット上のルールやマナーを考えながら撮影に臨むことができた。終わったあとに、達成感を感じた様子が見られた。</li> <li>・発表原稿の作成では、グーグル翻訳を使用した。英語が苦手な生徒も、翻訳が手軽にできるため、興味を持って取り組んでいた。また、自分の考えを世界の人々と伝え合うための英語学習の必要性を感じていたようであった。</li> <li>・グーグル翻訳した原稿が難しすぎたため、発表に苦労していた。</li> </ul>	技術6
融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フランスの子どもたちと、エネルギー政策について、お互いの国が「過去にしてきたこと」、「現在の問題」、「未来のこと」について意見を交流したことを基に世界に発信するメッセージを作成した。</li> <li>・世界に発信するメッセージを基に壁画のデザインのデザインの大枠を話し合った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の成果をふり返り、世界に発信したいメッセージを作成することは、難しいようであった。教師主導であったが、決定することができた。</li> <li>・お互いの国での立場は違うが、今後のエネルギー政策や自分たちができる身近な取組について考えることができた。</li> </ul>	技術2 美術部1
創造 壁画制作	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2年生の美術部員に、壁画の具体的な構成を考えた。</li> <li>・2年生は、電気自動車や太陽光発電など、学習した要素を取り入れた絵を壁画に構成し、彩色を行った。</li> <li>・1年生は壁画の背景として、美術の教科書に掲載されている紋様を参考に、型紙を制作し、それを使って下絵や彩色を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本や群馬を表す特徴を表現するためにはどうしたらよいかを話し合いながら構成を考える様子が見られた。</li> <li>・2年生は、技術科でフランスの生徒と協働学習したエネルギーに関して、ポイントとなる要素を意欲的に話し合っていた。</li> <li>・壁画の送付期限が迫っていたため、3時間程度の制作であったが、達成感を感じていた。</li> </ul>	美術部3
評価 振り返り 自己評価	1月 ～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校生徒が鑑賞できるように美術室に掲示した。</li> <li>・完成した壁画を鑑賞した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・壁画に描かれている内容や全体の構図、彩色方法の相違点や類似点に気付くことができた。特に、文化や伝統の違いを実感したようであった。</li> </ul>	美術部1

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	テーマ「エネルギー」に関して、発電の方法や日本の取組を伝えたり、日本とフランスの政策を比べたりすることで、日本の実情について理解を深めることができた。
異文化を理解する力	5	原子力発電が70%以上を占めるフランスのエネルギー事情をはじめ、各国のエネルギー事情を調べるという課題に対して、興味を持って調べ学習に取り組みていた。知りたいことをフォーラムで掲載し、質問し合うことで、フランスのエネルギー政策やそこに暮らす同世代の子どもたちの考えについて知ることができた。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	5	本やインターネットの活用、取材など、それぞれの特徴を生かして情報を収集することができた。情報通信ネットワークの仕組みや情報を発信する上で必要になる情報モラルやルールなど、相手意識をもって、情報をまとめ、発信することができた。グーグル翻訳を使うことで、英語の知識や技能が不足していても、自分の思いを英語で伝えることができ、容易に海外の人々と交流できることがわかった。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	3	伝えるための手段としての英語への関心が高まった。伝えたい相手の存在が効果的であった。一方、テレビ会議の調整がうまくいかず、できなかったので、実施することができれば、さらにコミュニケーション力は高まると感じる。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	それぞれの国のエネルギー事情について発表し合い、比べることで、相違点や類似点について考えることができた。自分たちが暮らす日本のエネルギーの将来について考えを深めることができた。
主体的に考え行動する力	3	「相手の暮らしている地域についてもっと知りたい」という思いが学習を追求する意欲につながった。一方、学校行事等もあり、断続的な取組となったため、教師主導の活動になってしまうことが多かった。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	テーマの「エネルギー」に関して、発電の方法や日本の取組について伝えるためにグループで役割分担をすることで、協力して発表することができた。また、海外の相手ともフォーラムや手紙等のやりとりを通して、活動を進めることができた。
思いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	3	技術科の授業による活動から美術部員による活動に引き継ぎ、壁画を制作した。テーマ学習の経緯や成果について、うまく共通理解が図ることができなかった。学習主体の引き継ぎに課題が残った。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	3	美術室に壁画を掲載し、全校生徒が鑑賞できるようにした。壁画に込められたメッセージ「融合:一緒にあれば強くなれる」の説明も掲載した。時間の都合上、作品をじっくりと鑑賞することができなかった。